



[令和 7 年9月10日 定例会発表要旨]

日本石油製油所について

手稲郷土史研究会

特別顧問

成内 義雄

協力者

釣本 峰雄

三国 勲

今回は、当初鈴木清士特別顧問が予定されていましたが、療養の為、鈴木会員の作成した資料をもとに釣本氏と三国さんの協力を得て発表します。



鈴木さんのご自宅が以前、に日本石油（日石）製油所があった場所であったところであった事から、鈴木さんが日石製油所を調べることになりました。

明治40年、日本で石油事業を展開していた米国インターナショナル石油会社は、親会社のスタンダード石油会社の指示により、日本での石油事業から全面撤退することになり、全資産を日本石油株式会社に譲渡することになった。

明治44年2月に北海道の事業(石狩油田、厚真油田等)の譲渡が行われた。



当初、来札に製油所を建設の意向であったが、鉄路輸送の利便性を考慮し、軽川に製油所を建設した。すでに石狩油田（八の沢、五の沢、峻別）から大型貯蔵タンクのある来札まではパイプラインが敷設していたので、来札から軽川までの延長敷施工（約17km）を行えばよかった。大半は石狩街道（道道石狩一手稲線）の直線道路であったので順調に進んだが、石狩川の渡架では難工事になり、当初パイプラインを川底に敷設し渡架を試みたが、水流に押されて破断し失敗に終わった。そのため、やむなく原油をドラム缶に入れ舢舨に積んで対岸の送油所まで運んだ。昭和3年、石狩川に架空送油鉄管線工事（川の兩岸に鉄塔を建てワイヤーを架設し、これに送油管を吊るす）を完成させた。

日石製油所は、昭和25年工場閉鎖まで北海道の石油需要を支えた。

昭和20年7月15日、米軍艦載機グラマン2機が小樽銭函方面より飛来し、軽川144番地にあった愛国351工場（日石製油所のこと）の石油タンクに爆弾を投下、タンク7基、工場の一部も破壊され、3日間も燃え続けた。

これまで、製油所の敷地が線路に沿った横長だと思っていたが、昭和23年の米国空中写真により、前田の奥に向かった縦長の敷地であったことがわかった。

北海道製油所の守り神とマーク(コウモリ)

北海道製油所の繁栄と安全を祈願し、新潟県にある「弥彦神社」の分霊として、通称「弥彦山」に「弥彦神社」が建立された。

日本石油(現 ENEOS)では、1888年創業時、創立記念式典に一羽の蝙蝠が迷い込んできたので、コウモリの漢字の蝙蝠の「蝠」が「福」に通じて縁起が良いと、商標、社章にコウモリのマークが使われるようになりました。

鈴木さんが、釣本さんの車に同乗し石狩油田跡(八の沢工業所跡地、厚田油田跡地、茨戸油田跡地)を訪問した内容が、会報201号に掲載されておりますのでご参考にしてください。

—お知らせ—

「たゆまざる歩み」第2巻

創会20周年記念として、当会会報「郷土史 ていね」の101号から200号までを合冊した「たゆまざる歩み」第2巻が9月9日に出来上がってきます。

準備出来次第、ご注文の方に順次お手元に届く様手配いたします。



手稲郷土史研究会創会20周年記念講演会

手稲郷土史研究会創会20周年記念講演会を下記の様に開催いたします。

日 時：令和7年10月11日（土）13：00～15：30

場 所：手稲区民センター 2F大ホール

内 容：挨拶講演 「手稲の恩人 蓑輪早三郎」にふれて

手稲郷土史研究会会長 沖田 紘昭

講 演 「新駅誕生による移住と札幌の移り変わり」

北海道開拓の村 館長 中島 宏一氏

10月2日、北海道新聞に当研究会の「たゆまざる歩み」第2巻の刊行と記念講演会に
関しての記事が掲載されました。



一 報 告

夏休み中(8月15日～17日)にイオン手稲駅前店で行われた「手稲むかしものがたり」のイベントの際、ご協力いただいたアンケートの結果です。来場者数は500人超でした。

アンケート回答総数 88

1, このイベントを何で知りましたか？

店内ポスター (61)、口コミ (7)、店外ポスター (6)、その他 (9)

2, なぜ会場に来たか？

手稲への興味 (32)、歴史への興味 (12)、内容が面白そうだから (36)

その他 (10)

3, どの企画がおもしろかった？

こどもものしり博士 (8)、テイネ石探し (49)、手稲山クイズ (20)

花畔までジャンプ (43)、土器の模様お絵かき (19)

4, このイベントについて

また、やってほしい (83)、もうケッコー (0)、どちらでもない (2)

5, どんなことを知りたいですか？

ていぬくんの歴史、手稲の歴史—4、手稲の虫、手稲の昔の様子—2、人口の歴史など今までどんなことがあったのか、手稲について、昔からの遊び、今と昔の地図の比較、手稲の良いところ、人物史、手稲の人たちの暮らし方、手稲の発展について、手稲の由来、札幌のこと、川の歴史、手稲の偉人、手稲石—2、手稲石がとれるところ、手稲の有名人、手稲の歴史や地理、金山について、手稲の生き物、手稲のこと—2、手稲山の歴史、手稲の食べ物、遺跡について、手稲石の形、遺跡の中身、石について、手稲山について

会員活動状況

9月30日、札幌市老人福祉センター（曙図書館隣）にて、当会林事務局長が 歴史探訪シリーズ第3弾として「手稲の歴史を身近に感じよう」との表題で手稲鉾山について講演をしました。当日は25人の定員を満たし、講演後身近な話題であるので活発な質疑応答が行われました。センターの職員の方もこんなに活発な質疑応答は珍しいとのことでした。来年度、当協会より講師を出してほしい旨の話もありました。

9月29日、当会員の杉浦さんが札幌市民カレッジの講師として「ちょっとダイープなまち歩き」の表題で北海道庁旧庁舎の歴史等の座学の後、現地に行きレンガの刻印、レンガの積み方(フランス式)等を実際に見学しました。

北海道科学大学のシンポジウムに出席して

9月20日、北海道科学大学の大学祭「稲峰祭」の際の「地域交通を考えるシンポジウム」に出席しました。

基調講演「次世代モビリティと地域交通」で准教授が今回のシンポジウムの為、手稲における交通の歴史を調べて、北日本飛行学校の存在を初めて知ったとの話でした。聴衆者も驚いている人が多く見られました。

その後、学生も含め、パネルディスカッション「札幌市手稲地区における未来を考える」が行われ、色々なアイデアが出ていました。 (文責 伊藤)

次回定例会 11月12日(水) 18時15分～ 区民センター2階第1・第2会議室

発表内容 「河川の整備・変遷について」 札幌市下水道河川局 事業推進部

河川事業課長 梅津 卓司氏

手稲郷土史研究会 会報「郷土史でいぬ」第209号 令和7年10月11日発行

発行責任者：沖田紘昭（手稲郷土史研究会 会長） 編集：菊池博行・伊藤政克

❖006-0818 札幌市手稲区前田8条11丁目4-5 林俊一 方 手稲郷土史研究会

*TEL 090-3381-4994 *FAX 011-682-9874

❖メールアドレス teinenorekish@gmail.com 担当 菊池 博行